



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～
～学校だより 春休み号 巻頭言として～

令和7年3月23日(月)
発行：摂津市立別府小学校
校長 河平 浩一

～一年間のご支援に感謝し、新たな一歩へ～

三学期が終わり、本日をもって令和七年度の教育活動を終えることとなりました。

この一年、子どもたちの成長を温かく見守り、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきました保護者の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

本校では、「誰もが楽しく幸せに過ごせる学校」をめざし、「すべての子どもに居場所がある学校づくり」を大切にしながら、日々の教育活動に取り組んでまいりました。子どもたちは学習や学校生活のさまざまな場面で、自分の考えを持ち、友だちと関わりながら成長していく姿を見せてくれました。また、児童会や委員会活動などを通して、「自分たちの学校を自分たちでよりよくしていこう」とする主体的な姿が多く見られた一年でもありました。

さて、3月18日には、第54回卒業証書授与式を挙行いたしました。卒業生一人ひとりが堂々とした姿で式に臨み、6年間の成長を感じさせる大変すばらしい卒業式となりました。最高学年として学校を引っ張ってきた卒業生の姿は、在校生にとって大きな憧れであり、これからの別府小学校を担う大切なバトンがしっかりと受け継がれていくことを感じました。



卒業式の様子

また、この卒業式を支えてくれたのが5年生の子どもたちです。歌や呼びかけの言葉、そして式に臨む真剣な態度で、卒業生の門出を温かく彩ってくれました。6年生の思いを受け止め、次の最高学年としての自覚を感じさせる姿に、大きな頼もしさを感じました。

校長として、式辞の中で卒業生には、「チャレンジし続けること」と「しんどいときには休んでもよいこと」という二つの大切なことを伝えました。前に進む力と、自分を大切にする力、その両方を持ちながら歩いていってほしいという願いを込めたものです。この思いは、在校生一人ひとりにとっても大切にしてほしいことです。

学校は、人間関係や社会を学ぶところでもあります。失敗したっていい、間違えたっていい、その経験が、次の自分をつくってくれます。子どもたちが安心してチャレンジできる居心地のよい学校をめざしていきたくて考えています。また、子どもたちの中には、人間関係が難しく、学校という枠や仕組みになじめず、行きにくくなっている子もいます。そうした子どもたちのことも大切にできる学校にしていきたいと考えています。

保護者の皆様には、この一年間、子どもたちの成長をともに支えていただきましたこと、改めて深く感謝申し上げます。これから迎える春休みは、一年間の成長を振り返る大切な機会でもあります。ぜひ、ご家庭においてお子様の頑張りやできるようになったことに目を向け、言葉にして伝え、できれば抱きしめてあげてほしいと思います。そうした関わりが、子どもたちを安心させ、自信となり、次の学年、新しいステージへと踏み出す力につながっていきます。

四月からは新しい学年、新しい出会いが待っています。別府小学校ではこれからも、「子どもが主役の学校づくり」を大切にしながら、一人ひとりが自分らしく輝ける学校をめざしてまいります。

来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。